

## **JALT Journal 書式シート（日本語原稿用）**

査読では原稿の内容を評価するため、一般的なアカデミックライティングの書式である限りは、必ずしもこの書式シートに沿っていなくても問題ありません。採択に至った場合、この書式に合わせ修正いただきます。

### **1 ページ目**

**題目（日本語、MS 明朝、フォントサイズ 14）**

**題目（英語、Times New Roman、フォントサイズ 14）**

著者名（日本語）

著者名（ローマ字）

所属（イタリック）

\*全著者名・所属を書いてください。

住所

電話番号

メールアドレス

\*第1著者もしくは corresponding author の情報を書いてください。全著者の情報を書いても構いません。

**謝辞（該当する場合のみ）**

JALT Journal の編集者名は謝辞に入れないでください。

**著者略歴**

著者名を含め、1名につき 100 字以内で 3 人称で書いてください。

### **2 ページ目**

**要旨**

日本語で要旨を書いてください。

あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねのはひふへほまみむめもやゆ  
よらりるれろわをんあいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねのはひふ  
へほまみむめもやゆよらりるれろわをんあいうえおかきくけこさしすせそたちつて  
となにぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりるれろわをんあいうえおかきくけこ  
さしすせそたちつてとなにぬねのはひふへほまみむめもやゆよらりるれろわをん。

（400 字以下、MS 明朝、フォントサイズ 12、行間 1 行）

### **3 ページ目**

## 要旨

英語で要旨を書いてください。

Molestie quis eu. Duis augue et eu qui iusto, consequat dolore. Wisi ut augue dolore ea consetetuer dignissim at dolor te iriure at, tation quis nulla facilisi eu. Nostrud aliquip facilisi autem diam. Elit volutpat veniam commodo hendrerit duis lobortis tation dolor, sit magna facilisis. Dolor ad dolor esse augue ad tation. Ex esse iriure delenit praesent, adipiscing iriure, ut. Zzril facilisi, et consetetuer vel ad consequat lorem praesent facilisis. (「論文」、「研究報告」、「展望論文」、「JALT Journalに掲載された著作物へのコメント・考察」は500-750語程度、「書評」は100語程度、Times New Roman, 12 point, single line spacing)

## 4 ページ目以降

題目（日本語、MS 明朝、フォントサイズ 14）

題目（英語、Times New Roman、フォントサイズ 14）

本文をここから書いてください。「はじめに」、「背景」、「導入」などの見出しは使わないでください。最初の段落の最初を字下げ（インデント）する必要はありません。

以降の段落は全て字下げしてください。タブを使い、スペースや自動インデント機能は使わないでください。

**Level 1** ヘッダー：左揃え、太字

**Level 2** ヘッダー：左揃え、イタリック、太字

**Level 3** ヘッダー：左揃え、イタリック

このようにヘッダーを使い、執筆ください。

新設するヘッダーの前には、空白行を 1 行入れてください。

## 書式全般

JALT Journal は、アメリカ心理学会の出版マニュアル第 7 版 (*Publication Manual of the American Psychological Association, 7th edition*) に全体的に従っています。マニュアルの詳細は、<<https://apastyle.apa.org/products/publication-manual-7th-edition>>をご覧ください。主なポイントを分かりやすくまとめたものが、APA Style のウェブサイト<<https://apastyle.apa.org/>>から入手できます。APA Style は、一部を除いて日本語での執筆に関連する項目が多くありますので是非ご参照ください。例えば、英文法に関する事項は関連しませんが、表現の明快さと経済性の原則は日本語での執筆においても重要なことです。また、完全で正確な文献リストや引用のために必要な情報が詳細に記されており、その重要性は、文面の体裁の違いはあっても日本語での論文と英語での論文に共通するものです。

なお、上記のマニュアルとは書式が異なる部分もあります。詳細は以下をご覧ください。過去に出版された号もご参照ください。

文字、句読点、スペース

通常、全角文字を使用しますが、英数字には半角文字（ABC123 など）を使い、全角文字（ABC 1 2 3 など）は使用しないでください。

全角括弧を使用ください。

括弧に続く括弧は避けてください。ほとんどの場合、日本語のセミコロンで置き換えることができます。例えば、「...Teaching English in English (TEE) (町田、2019)」は、「...Teaching English in English (TEE ; 町田、2019)」に置換できます。なお、括弧内の括弧（例えば、括弧内の引用）の使用も避けていただき、必要な場合は、内側の括弧に角括弧を使用願います。

日本語の文字列内にスペースが必要な場合は、全角の日本語スペース（ ）を使用します。必要に応じて、英数字要素の間、または英語の句読点（例：引用におけるカンマとピリオド）の間に半角スペース（ ）を使用します。英数字と日本語の間にはスペースを入れないでください（例：論文データベース CiNii で...）。

## 直接引用

120 字以内の引用は連続したテキストで行い、「括弧」で区別する必要があります。引用内の引用には『二重括弧』を使用してください。

120 字を超える引用は、ブロック引用として挿入する必要があります。引用符は不要です。

全ての引用は、引用文献リストに記載した引用文献とともに引用する必要があります。引用部直後にページ番号を含めてください（例：著者名（出版年）「.....」（p. #）とします。）。

## 元のソースから変更を加える

（引用の最初または最後を除いて）元のソースで引用されているテキストを省略して引用する場合は、省略部分を省略記号（。。。）で明示してください。

## 表と図

表と図は、最初に言及された段落の直後に挿入してください。ただし、特殊なフォーマットが必要な場合を除きます。その場合は、別ファイルに入れ、最初に言及された段落の直後に以下を追加します：

（1 行空ける）

ここにテーブル/図を挿入

（1 行空ける）

最適な位置に入れるのは難しいため、表や図を段落内に入れないでください。

MS-Word など文書作成プログラムの表作成機能を使用して表を作成します。表計算プログラムでレイアウトしたり、タブやスペースを使用して文書作成プログラムに入力したり、PDF として挿入したりしないでください。

表と図のフォーマットに関する一般的なガイドラインは、*APA Style* のウェブサイトから入手できます。<<https://apastyle.apa.org/style-grammar-guidelines/tables-figures/index>>

表、図、注にはそれぞれ次のラベルを使用します：

表#. タイトル（例：表 1. タイトル）

図#. タイトル（例：図 1. タイトル）

注（例：注 1. ああああ）

## 引用（本文内での参照）

出版物を参照する場合は、本文内で参照してください。基本的な形式は次のとおりです：著者名（出版年）または（著者名、出版年）。

複数の文献を引用する場合は、日付順ではなく、引用文献リストに記載されている順に引用してください。

### 句読点とスペース

英数字には半角スペース（ ）を使用します。例えば、（Wei & Zhang, 2020, pp. 22-24）。

日本語の全角括弧を使用します。

参照部分内では、要素を区切るコンマは英語スタイルのコンマの後に英語のスペースを続ける必要があります。つまり、(,)であり、(、)ではありません。

同時に複数の文献がある場合、または括弧で囲まれた資料が引用から離れている場合は、英語では半角の文字が使用されますが、日本語では全角のセミコロンを使用します。

### 著者を参照する場合

著者が2人の場合は、文献を引用するたびに両著者の名前を書きます。名前を単一の点（ナカテン・）で結合し、姓の後に英語のコンマと半角スペースを続けます。英語の作者の場合は括弧内に「&」を使用します。

著者が3人以上の場合は、第1著者名と「他」としてください。例えば、田中他です。

同じ作者が同じ年に2つの文献を出版・発表している場合は、引用文献リストに記載の順序で出版年・発表年の後に小文字を追加します。例えば、（田中、2019a）や（田中、2019b）です。引用文献リスト内の出版年・発表年も同様です。

### 参照内の日付

必要に応じて、日本語で年、月、日を示します。例えば、（田中、2000年8月）や（内田、2018）です。

出版年・発表年が不明なときは、出版年不明と書いてください。例えば、内田（出版年不明）です。

## 注

一般的に、関連する情報は本文に含め、注の使用は控えてください。ただし、伝えるべき補足情報がある場合は、巻末に注として入れることができます。1つの注につき、1つの事項にとどめてください。上付きの番号を使用して、注に連続した番号を付けます。

脚注は使用しないでください。

巻末注を適切な場所（本文の直後、著者の経歴の前）に通常のテキストとして入力します。文書作成プログラムの「メモ」機能を使わないでください。

## 引用文献

### 全般的に

原稿内で言及・引用した著者のみを引用文献欄に記載ください。

原稿内で引用されている著作物は全て、引用文献欄に対応する引用物があることが必要です。

書式設定時には、引用文献の全ての行を左マージンに揃える必要があります。インデントしたり、行間で余分にエンターキーを押したりしないでください。

まず、日本語の引用文献を五十音順で並べます。その後ろに、英語（および日本語以外の）引用文献をアルファベット順で並べます。「日本語の引用文献」と「英語（および日本語以外の）引用文献」は別に並べてください。両者を混ぜないでください。

APA スタイルでの参照の基本原則を分かりやすくまとめたものと、多様な種類のソース（学術論文、本、本の章、新聞、レポート、ウェブサイトなど）の例が、*APA Style* のウェブサイト<<https://apastyle.apa.org/style-grammar-guidelines/references/>>にあります。これらのガイドラインに従い英語以外の全引用文献の書式を整え、日本語での引用文献が必要な情報（利用可能な場合は DOI を含む）を全て含んでいるように確認してください。日本語の引用文献に関連する詳細は、以下を参照してください。

### 日本語文献の参照のスタイル

以下の表 1 を、日本語引用文献の書式の基本的なガイドとして使用ください。

表 1. 一般的な引用物の参照テンプレートと例

Source type	Basic template	Example(s)
Books	著者氏名 (year) 『書名』 (edition) 出版社. DOI (if available)	伊村元道 (2003) 『日本の英語教育 200 年』大修館書店. 竹内理・水本篤編著 (2015) 『外国語教育研究ハンドブッカー研究手法のより良い理解のために』 (改訂版) 松柏社. 平井明代編著 (2017) 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門—理論と実践から学ぶ SPSS 活用法』 (第 2 版) 東京図書.
Chapters in edited volumes	著者氏名 (year) 「題名」編者氏名+編『書名』 (pp. start#-finish#) 出版社. DOI (if available)	橋口菊 (1960) 「諮問第二号 高等普通教育ニ関する件 その一」海後宗臣編『臨時教育会議の研究』 (pp. 339-425) 東京大学出版会.
Journals	著者氏名 (year) 「論文名」『雑誌名』 volume (issue), start page#-finish page#. DOI (if available)  注. - volume (巻) はイタリック体	泰田伊知朗 (2018) 「日本語教育および日本文化教育における俳句とかるたの活用：台湾における高校生俳句かるた大会の報告」 <i>The Language Teacher</i> , 42(5), 15-19. 高橋亘 (2016) 「日本語多読研究

	<p>です (volume 【巻】 が無い場合は、後続のコンマもイタリック体です)。</p> <p>- issue (号) 番号を囲む括弧は半角です。</p>	<p>に向けた基礎研究—多読活動の類型化の試み—」 <i>Language, Area and Culture Studies</i>, 22, 369-386.</p> <p>馬場正太郎 (2019) 「どうすればハイステイクス・テストの望ましい波及効果をもたらすことができるのか? 教育心理学研究からの提案」 <i>JLTA Journal</i>, 22, 44-64.  <a href="https://doi.org/10.20622/jltajournal.22.0_44">https://doi.org/10.20622/jltajournal.22.0_44</a></p> <p>文部科学省高等教育局学生課大学入試室 (2004) 「『英語』リスニングテストの導入について」 『大学入試フォーラム』 26, 24-29.</p>
Newspapers (but not online news websites that do not have print versions)	<p>記者名(year 年 month 月 day 日)  「記事名」 『紙名』 pp. start#-finish#. URL if online</p> <p>記事名(year 年 month 月 day 日)  『紙名』 pp. start#-finish#. URL if online</p>	<p>鳥飼玖美子 (2018 年 9 月 17 日)  「複数の英語試験を入試活用『欧州基準』で換算、不適切」 『日本経済新聞』 .<a href="https://www.nikkei.com/article/DGXMZO35384080U8A910C1CK8000">https://www.nikkei.com/article/DGXMZO35384080U8A910C1CK8000</a></p> <p>独逸学生大運動 (1890 年 5 月 15 日) 『朝日新聞朝刊』 p. 1.</p>
Websites (including online news sources)	<p>記者名(year 年 month 月 day 日)  「Page 名」 『Site 名』 . URL</p>	<p>柳瀬陽介 (2020 年 6 月 7 日) 「オンデマンド配信シンポジウム: 『学校英語教育は言語教育たりえているのか—意味の身体性と社会性からの考察—』」 『英語教育の哲学的探究 3』 .<a href="https://yanase-yosuke.blogspot.com/2020/06/blog-post_7.html">https://yanase-yosuke.blogspot.com/2020/06/blog-post_7.html</a></p>

### 著者と編集者の名前

氏名は姓名の両方を、引用文献に入れる必要があります。

著者/編集者が複数人の場合は、名前を単一のドット (ナカテン・) でつなぎます。例えば、上野寛・久保田ひかり・田中俊輔 (2016) です。

編集者が一人もしくは複数の場合は、併記した編集者のうち、最後の編集者の名前の後ろに「編」を追加します。例えば、上野寛・久保田ひかり・田中俊輔編（2013）です。

引用したい著作物・発表物に著者がいない場合は、作品のタイトルを著者名の位置に書いてください。

### **出版年**

出版年に加え、出版月、出版日も必要な場合は、必ず日本語で記載してください。例えば、出版年のみなら（2008）に対して出版月も含む場合は（2000年8月）となります。

出版年・発表年が不明なときは、出版年不明と書いてください。例えば、田中（出版年不明）です。

著作物が **in press** の状態にあるときは、「印刷中」と書いてください。例えば、田中（印刷中）。

### **DOI と URL**

紙版・オンライン版に関わらず、DOIがある場合は、該当文献の最後のピリオドに続けて記載願います。

DOIがない場合は、URLが必要になる場合があります（APAガイドラインを確認してください）。最終期間後にURLを追加します。URLがアクセス日付を必要とするのはまれですが、その場合は、通常の参照の後で、最後の期間の前に、アクセス年月日を記載します。句読点に続かない場合は、その前に英語のコンマと半角スペースを追加します。

### **付表**

付表はこの位置に入れてください。別の書式が必要な場合は別のファイルに入れて、次のように記述します：

（1行空ける）

付表をここに入れてください

（1行空ける）

付表が複数ある場合は、大文字（付表A、付表Bなど）を使用して連続したラベルを付けます。

全ての付表は本文で言及される必要があります。

付表に表や図が含まれている場合は、上記の表や図のフォーマットガイドラインに従ってください。